

2024 年度 第 10 回 3 月 期 定 例 番 組 審 議 会 議 事 録

1. 開催の日時 2024 年 3 月 12 日 (水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数 9 名
返信総数 3 名
出席総数 6 名

出席委員名	委員長	増田 仲夫
	副委員長	河又 弘子
	委員	竹内 明子
	委員	石松 英昭
	委員	若井 明香
	委員	高橋 久夫
	委員	小川 俊彦
	委員	藤原 紀沙
	委員	井出 智子

4. 議 題

(1) 午後のワイド番組アクセント内

「フォークの時代」

放送日 毎月第 4 火曜日 14 : 05 ~ 14 : 25

- 2024 年 8 月 27 日
- 2025 年 1 月 28 日

放送分を試聴

(2) その他

5. 議事内容

(1) 「フォークの時代」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

番組内容

- 1960～70年代のフォークソングに焦点を当てる音楽番組。
- 歌い継がれる名曲や、それらを世に残したシンガーのエピソードを紹介。
- 昭和の音楽が見直されている現在、当時の世相や価値観を含め、フォークソングの魅力を伝える。

出演

池澤真司：「特定非営利活動法人 奏」代表理事

北條秀延(JOE)：ライブバー「宮フォーク村」マスター

各委員からは

○聞いていて、よくわからなかった。内容としてはやはりマニア向けだなと。知らない言葉が多く、説明も長くて少しくどい印象でした。でも、「雨が空から降ってくる」「竹田の子守唄」はしみじみと感じられましたし、「翼をください」が流れたときは少しほっとしました。それまでは「この番組、一体なんだろう？」という気持ちでした。私のような年配者には少し難しく、若い方々にも伝わりづらい部分があったのではないかと感じました。

○今回の番組では、日本のフォークソングを語る上で重要な存在が取り上げられ、それぞれの音楽的特徴や経歴等が紹介されており、フォーク音楽の一端を知る上で、大変有意義な内容だったと感じました。番組は20分という限られた時間内で1～2曲に焦点を絞り、楽曲の背景やアーティストのエピソードを簡潔に伝えることで、聞きやすくまとまっていると感じました。また、落ち着いた語り口で進行され、余計な演出を排したシンプルなスタイルで、フォークソング本来の魅力や歌詞のメッセージにじっくり耳を傾けることができました。番組全体として、フォークソングが今も色褪せず愛され続けていることを実感できる構成になっており、パーソナリティの視点を通じて、フォークの魅力を伝える意図がよく反映されると感じました。

○この番組について大切なのは、栃木放送が誰をターゲットにし、何を伝えたいのかを明確にすること。対象がしっかり定まっていれば、それで十分意義があると思います。特に「竹田の子守歌」が流れたことで、懐かしさを感じ、フォークソングの良さを改めて認識する機会になった。また、フォークソング時代の人たちが楽しめる内容であるならば、それ自体に価値があると思います。ただ、若い世代へ広げる意図があるなら、番組の構成を見直す必要があるのではないかとと思う。

○ 近頃テレビ番組で昭和歌謡がカバー曲を含め放送されることが増えているのですが、フォークソングについてはなかなか取り上げられません。知識のある人がいない、見栄え

のする映像がない（そもそも当時のアーティストたちがテレビを避けていた）というあたりが理由として考えられますが、ラジオだからこそ良質な番組として実現できることを示したものだと思います。豊富な知識と熱い想いを持つパーソナリティが、落ち着いた口調でわかりやすく語り合い、曲も紹介しています。生放送でしっかり収まる構成も良いと思います。また、この番組は、高齢者のリスナーが多いAM局に親和性があること、まとまりの良さ、適度な地域性を持つことなどから、他の地方局に提供できるものだと思います。気になる点は、マニアによるマニアのための番組、フォークソングが好きな人だけに届けばいい番組になっているのではということです。できれば若い世代を参加させ、フォークソングを若い世代がどう受け取るのか、フォークソングが現在までの音楽にどう影響してきたか等にも焦点をあてると番組の広がりや深みが生まれるのではないかと思います。

○この番組のメインリスナーは中高年層が多く、青春時代の思い出のフォークソングの話は、とても懐かしさを感じる内容だった。内容としてはややマニアックな部分もあるが、各グループのエピソードや曲の背景についての話があり、月1回ではなく、もう少し回数を増やして月2回ほど放送してもよいのではと感じた。放送時間がお昼の時間帯ということもあり、仕事や作業をしている方も多いため、じっくり聞ける人がそれほど多くないのではないかと。そう考えると、もう少し曲を増やした方がよかったのではないかと考えた。

○1960～70年代のフォークソングを、その時のグループ結成の経過やメンバーの紹介も交えて聴くことができ懐かしく感じた。音楽もアナログ感があり、今のように複雑でなくシンプルで心に染み入る感じ。私たちの年代には懐かしく聞き入ることができたが、若い人たちはチンプンカンプンか、それともこれはこれで興味を持つことができたのか聞いてみたいと思った。

○フォークソング世代ではないため、内容が少しわかりにくく、2回ほど聞いた。フォークソングのファンにとっては興味深い番組だったのではないかと感じた。MCのトークは気軽に聞けて、AMらしい番組だったと思う。ただ、池澤さんの話し方の癖や話す量の多さが気になり、北條さんの発言が少なかった点も気になった。番組のコンセプトはシンプルで、名曲やシンガーのエピソードを紹介し、フォークソングの魅力を伝える内容だった。もう少し曲が多くてもよかったと感じた。

○最初に聞いた時、コミュニティFMのような番組だと感じた。身近な人が自分の得意分野を熱く語るのコミュニティFMのイメージに近い。ただ、AMとの違いを考えると、スポンサーがつくかどうかの大きな差で、今回の番組はスポンサーが取りづらいタイプに感じた。曲が少なく、マニア向けの内容で、知らない人にはついていけない部分が多かった。Wikipediaを読んでいるような印象を受けたのも残念だった。ただ、「翼をください」の

ように広く知られる曲を深掘りして紹介すれば、新たな発見があり、より楽しめるのではないかと感じた。MC3 の話し方については、「まあまあ」という合いの手や、舌打ちのような音が多く、気になってしまった。話し方の癖が改善されれば、より聞きやすくなると思う。地元の知識を持つ人にはぜひ登場してほしいので、さらに聞きやすい番組になれば良いと感じた。

- 1 回聞いただけでは内容がわからず、2 回聞いてからネット検索をしてみたが、宇都宮にこんなにフォークについて詳しい方がいることに驚いた。裏話が面白かった。2 人の男性の掛け合いは落ち着いた口調で聞き取りやすく、心地よく感じた。また、宇都宮でジャズだけでなくフォークのイベントも行われていることに驚き、若い人たちがどれくらい興味を持っているのか気になった。話の中で、誰かが亡くなったという話をした時に少し笑っているような感じが気になった。また、紹介の際に「だと思えます」という言い回しがあったので、生放送ではしっかり調べてから話した方が信憑性が増すと思いました。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2025年3月30日）
- ② 当社のホームページに掲載（2025年3月31日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2025年3月31日～）

以上